

(様式4-2)

研修成果概要

所属名 鈴鹿市子ども家庭支援課

職名・名前 主幹 松岡宏樹

1 事業の名称 平成25年度発達障がい児担当指導者内地留学

2 留学先の名称 三重県立小児心療センターあすなる学園

3 研修主題

あすなる学園で学んだ「市町における気になる子の途切れのない支援の体制づくり」の研究

4 研修成果の概要

気になる子どもたちを途切れなく支援していくためには、幼少期から支援を始めると良いと考える。幼児期の子どもたちを支援するにあたって、「CLMと個別の指導計画」を活用することはとても有効な手段である。

CLMとは子どもたちの日常生活の様子から、気になる行動をチェックするためのアセスメントツールである。アセスメントを行った後、個別の指導計画を作成し、子どもたちを支援していく。

「CLMと個別の指導計画」の利点として4点あげることができる。1点目として、クラス経営と個別支援を同時に考えることができること。2点目として、子どもを褒めながら、集団への規律を教えることができること。3点目として、アセスメントをすることで、子どもを見る力を養うことができること。4点目として、支援計画に対して明確な評価をすることで、支援計画が上手くいったかどうかの振り返りを行うことができること等が挙げられる。

特別支援教育については、様々な支援の方法論が出されている。しかし、一番必要なのは、その支援策を実行に移し、効果の出るものにするることである。子どもの特性を「アセスメント」し、子どもの特性に合う「具体的な支援」を考え実行し、その支援策がどうだったかの「明確な評価」をすることで、成功する支援策を積み上げていく。そして、それら成功した支援策を、次の年度に引き継いでいくことが、気になる子の支援を途切れなくしていくために最も重要なことであると考えられる。